

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和6年7月4日
静岡県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 病名：トマト立枯病
病原菌：*Fusarium solani-melongenae* (*Haematonectria ipomoeae*)
- 2 発生作物 トマト
- 3 発生経過
 - (1) 県内のトマト栽培施設で地際部や葉かき跡が褐変腐敗する症状の発生がみられたことから、令和6年3月に西部地域の10施設を調査したところ、8施設で本症状が確認された。
 - (2) 現地で採取した罹病株から分離した菌の形態および遺伝子配列を確認したところ、6菌株がトマト立枯病の病原菌である *Fusarium solani-melongenae* (*Haematonectria ipomoeae*) と一致した。
 - (3) 分離菌株をトマトに接種したところ、発病が確認された。
- 4 国内の発生状況
本病は平成2年に愛知県で初めて発生が確認され、その後7県で発生が報告されている。
- 5 病徴
 - (1) 地際部や葉かき跡に褐変、ひび割れがみられ、発病部位の内部にも進展する(図1、2)。
 - (2) 罹病部の表面には赤色の小粒(子のう殻)を形成する場合がある(図3、4)。
 - (3) 症状が進展すると葉の黄化、株の萎れを生じ、枯死する。
- 6 防除対策
 - (1) 現時点(令和6年7月4日)で本病に対する登録農薬は無いため、耕種的な防除を実施する。
 - (2) 生産資材の交換や消毒を実施する。
 - (3) 発病株は伝染源となり得るため、発見後は抜き取り、ほ場外で適切に処分する。
 - (4) 栽培終了後は残渣を残さず除去し、施設内の衛生管理に努める。
 - (5) 定植前に太陽熱土壌消毒などの防除を実施する。



図1 地際の褐変



図2 葉かき跡の褐変



図3 地際に形成された子のう殻

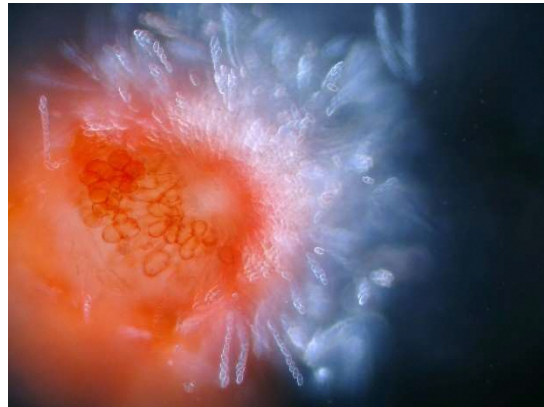


図4 子のう殻と子のう胞子

【問合せ先】静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

